

「募集難に立ち向かえ」臨時役員会で対策を討議



「今何をやるべきか」議論に熱が入る。

神奈川地方協力本部相模原地域事務所（所長 林2陸尉）は、8月3日（水）、同事務所で実施された相模原地域自衛官募集相談員会（会長 大松行信氏）の臨時役員会を支援した。

同役員会は、自衛隊神奈川地方協力本部長（松田一海佐）の依頼により行われ、を迎えて、募集難に立ち向かうため、本部長より提案のあった「あらゆるチャンスを利用した募集協力！」というテーマに対し、会長をはじめ各役員が、「自分たちに何ができるのか」「どこに努力を集中すれば良のか」を真剣に討議し、募集難に立ち向かうための様々なアイデアを出し合って役割分担を決めるとともに有言実行を誓い合った。また、臨時役員会終了後1カ月以内に臨時総会を開催し、「臨時役員会決意事項を全相談員に徹底していく」と力強い言葉が聞かれた。

相模原地域事務所は、「今後も協力団体と連携を密にし、今年度の募集広報に更なる努力を傾注していく」としている。

富士総合火力演習研修

神奈川地本カレッジ防衛モニター 井上 美桜

8月28日（日）、カレッジ防衛モニターの活動として、御殿場市東富士演習場で行われた富士総合火力演習を研修した。

会場には朝早く着いたと思ったが、既に多くの来場者で混雑していて驚いた。意外だったのは、来場者が予想していた男性ばかりでなく、子供連れのご家族の方や女性の見学者など、様々な年齢層の方がいた。

私たちはシート席に座ったが、席の目の前に戦車が来るのが多かったので、すぐ間近で見学することができた。実際に発砲したときには大きな音やその振動を体感することができ、迫力満点であった。特に実戦形式の演習では、まるで戦場にいるような臨場感が伝わってきて、すごいものを見せていただいているなと改めて感じた。ただ、あいにくの曇り空で、空挺降下など見学することができないものがあったのは残念であった。

今回初めて富士総合火力演習を研修したが、とても貴重な経験をさせていただいたと感じるとともに、もし機会があればまた見学をしてみたいと思った。

富士総合火力演習研修

神奈川地本カレッジ防衛モニター 勝呂 拳人

8月28日（日）、静岡県東富士演習場で行われた富士総合火力演習を研修した。本演習は、毎年行われており、約2400人の自衛隊員が実弾を使って演習する光景を間近で見学する事ができる。今回初めて参加したが、想像していた以上の多くの見学者で賑わっており、この演習の人気高さが伺える。

当日は、上空で飛行するヘリコプターの雄姿を見ることができ、数多くの榴弾砲による一斉射撃や観客席近くの戦車から放たれる砲弾の爆音とその威力や迫力には驚かされた。また、演習する部隊の動きがとても素早く、次の展開の準備に移る際の流れるような手際の良さに見惚れるとともに、その陰には日々の訓練の積み重ねがあるのだろうと感じた。

大学を卒業したら自衛官になりたいと考えている私にとって、普段なかなか見ることのできない演習の様子を実際に見学できて良かった。